

経済建設委員会会議録

平成25年8月9日

13時00分

開 会

13時17分

閉 会

網 走 市 議 会

午後 1 時00分 開会

○佐々木委員長

大変皆様お疲れさまでございます。

経済建設委員会を、ただいまより開催いたします。

本日の委員会は、地域公共交通西山通線及び二ツ岩線の本格運行への移行についての議件 1 件と、その他としまして、網走湖におけるシジミの分析結果について報告を予定しております。

ではまず 1 件目、地域公共交通西山通線及び二ツ岩線の本格運行への移行についてを説明をお願いいたします。

○嶋田商工労働課長

地域公共交通西山通線及び二ツ岩線の本格運行への移行について、御説明いたします。

資料 1 号をごらん願います。

路線バスなどの公共交通が空白となっている錦町鉄南地区及び二ツ岩海岸町地区を対象に、住民の公共交通に対する需要の把握と、将来的な民間事業者による輸送サービスの可能性について検証することを目的として、昨年12月から、本年 9 月末まで実施する予定の実証試験運行の利用状況について御報告いたします。

西山通線は中型バスを使用したコミュニティバスを12月 1 日から 7 月31日までの間に、236日2,170便運行しまして、利用者数の合計は4,925人、1 日当たりの平均利用者数は約21人、1 便あたり 2.3人となっております。

次に二ツ岩線は、ジャンボタクシーもしくは小型タクシーを使用した事前予約型乗り合いタクシーを、12月 3 日から 7 月31日までの間に134日236便を運航しまして、利用者数の合計は765人、1 日当たりの平均利用者数は約 5 人。1 便あたり 3.2人となっております。

利用者の内訳につきましては、83%が通学利用、17%が高齢者の利用となっております。

次に、本格運行への移行についてですが、現在までの実証試験運行の状況及び地域の意見を踏まえまして、平成25年10月 1 日から民間事業者による本格運行へ移行することとしたところであ

ります。

西山通線についてですが、路線、運行日、便数、運賃については、実証試験運行と同一の内容とし、運行主体は網走バスが行うこととなり、運行経費に対する助成は国庫補助金、市補助金を充てることとしております。

二ツ岩線についてですが、路線、運行日、便数、運賃については、実証試験運行と同一の内容とし、運行主体は網走ハイヤーが行うこととなり、運行経費に対する助成は、市補助金を充てることとしております。

利用促進に向けた今後の取り組みですが、地域との意見交換会等を開催し、利用実態の現状認識の共有化を図るとともに、地域住民の利用促進に向けた理解と協力を求めていると考えております。

また、今後必要に応じて運行ダイヤの見直し等も検討してまいりたいと考えております。

続きまして、資料 2 号、平成24年度網走市地域公共交通調査検討事業について御説明いたします。

資料の 1 ページをごらん願います。

平成23年 3 月に作成した網走市地域公共交通総合連携計画に基づき、網走市における地域公共交通の活性化及び再生のため、九つの取り組みを設定しておりますが、平成24年度は協議会がその取り組み内容に沿った、四つの事業を実施しております。

一つ目は、錦町鉄南地区及び二ツ岩地区における実証試験運行を行うに当たってのアンケート調査。

二つ目は、コミュニティバス西山通線の実証試験運行。

三つ目は、予約型乗り合いタクシー二ツ岩線の実証試験運行。

四つ目は、天都山地区におけるアンケート調査をそれぞれ実施しております。

事業の実施結果等につきましては、2 ページ以降に記載されておりますので、後ほど御一読いただければと存じます。

以上で説明を終わります。

○佐々木委員長

皆さんのほうから質問等ございますか。よろしいでしょうか。

○山田委員

実証試験を含めて運行をしてきまして、結果として10月1日から本格実施と。

具体的に聞きたいのは、地元としてはぜひ走らすべきだということは、基本の認識には僕も立つのですが、収支のことを含めて総合的に判断しなければならないということは、もちろんあると思うのですが、先ほどあったように、コミュニティバスの西山通線、アンケートをいろいろ事前にした部分でいくと33%ぐらいの方が利用するという結果があるのですが、今回実証実験した段階で、1日21人ということなのですが、これ、事前のアンケート結果との対比でいったら、どういう結果がひとつ分析含めてあるのかなということが一つと、二ツ岩についても、昔は水族館があったということも一つあったのかもしよませんが、路線バスが運行していた状況の中で、地域の利用が減って、運行廃止と。それで、小学生含めて通学のいろいろ、地元として大変な状況も生まれてきたという中で、公共交通計画を立てる中で、二ツ岩も乗り合いバス、タクシーを利用してということで予約制で実証実験してきたわけで、やることについては私も何ら異議もないので。

ただ将来も含めてですが、まず西山の関係でいきますと、国庫補助金と市補助の活用ということになってるのですが、これはおよそどのくらいの補助金を出してやるのかなということと、二ツ岩の乗り合いについては、ここに提示があるように、利用については400円、200円とか300円ですか。

いろいろになってますが、こちらの資料等にもあるように、走らせれば走らせる程、今の利用でいけば、負担が大きくなる可能性もあるということも一つあるわけですが、やはり利用をふやしていかなければならないというのは、両方とも同じ状況だと思いますから、これからの地域の方と意見交換会をする中で、ぜひ利用も含め

てということに、きつとお願いというよりは、そういう立場で議論をしていかなければならないだろうというふうに思うわけでありまして、それでまず補助金の金額と、事前にとったアンケートとの対比をした場合について、今回実証試験をした結果として、対比をした場合については、分析結果としてどういう実態があらわれたのかを、ちょっとお聞かせいただきたい。

○嶋田商工労働課長

西山通線と、それから二ツ岩線の実証試験運行を行うに当たって、事前にアンケート調査をして、それぞれ3分の1の方とか40%の方が、事前のアンケートでは利用する意向があるというようなことで、アンケート調査の結果を出ているわけなのですが、実際に実人数で実際に利用されている方の割合ということは、ちょっと把握することはできていないのですけれども、その実証試験運行するにあたっての運行経費と、それから収支の関係なのですけれども、西山通線については、運行経費に対する収入の運賃の割合が約5分の1というなかで、また二ツ岩線については約3分の1といったように、5倍なり3倍なりの収支の乖離があるというような状況になっております。

西山通線における、本格運行に移行した場合の、経常経費と収入の見込みの差額につきましては、10月1日以降から1年間の運行にかかる経費の収支の差額の、いうならば赤字分というのが、大体850万円程度というふうに見積もっております。こちらのほうは国の補助金を約400万円、市の補助金を450万円程度というふうに試算しております。

二ツ岩線の方につきましては、年間の運行回数が、月平均50回程度、年間60回60便を運行するという形で試算しましたところ、市が補てんする金額というのは、約70万円程度になるというふうに見込んでおります。

以上でございます。

○山田委員

今聞きましたように公共交通を守るとなると、

持ち出しも含めてこれはやむを得ないかなというふうにちょっと思っていますが、できる限りこの資料2の裏にも一番最後にもあるように、収支のバランス改善策の整理ということの欄がありますけれども、利用の促進か運行費用を安く抑えるという、この二つしかないのかもしれませんが、ぜひ事前のアンケートの3割4割という利用者の部分がありますけれども、最大限、二ツ岩はようやくだから、走らなかつたら走らないということにきつとなると思いますけれども、西山の場合は路線バスで運行していますから、いろいろ停留所の関係の改善等もしながら対応してきたことも聞いていますから、ダイヤの時間の見直しとか、いろいろなことを、利用しやすいような状況もつくりながら、ぜひ利用促進に向けて本格実施というのは私も歓迎したいと思いますから、心配なのはその1点だったので、ぜひ地元の方たちとの意見交換の場所でいろいろ議論していただいて、ぜひ利用促進につながるよう努力をいただきたいというふうに思います。

以上です。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

では、この件につきましては終了いたします。

次にその他ですけれども、網走湖におけるシジミの分析結果についての報告ということですので、まず担当のほうから報告をお願いいたします。

○河野水産港湾部次長

先月発生いたしました網走湖産シジミの異臭問題につきまして、分析結果が出ましたので私のほうから御報告いたします。

資料3号をごらんください。

7月23日ごろから、網走湖のシジミからカビ臭い、泥臭いなどの苦情が寄せられ、西網走漁協組合では7月26日に千歳にあります財団法人日本食品分析センターにサンプルを送りまして、分析を依頼するとともに、30カ所で採取したシジミの食味調査を行ったところ、ほぼ全域からカビ臭を

確認したところです。

同漁協では、7月28日から自主休漁措置をとっております。

シジミの分析結果から、原因物質は藍藻類などによって生成される、2-メチルイソボルネオールという物質であることが判明しております。

この物質による異臭被害は、青森県小川原湖においても発生しており、毒性は認められておらず、食べても安全であると確認されております。

また、水道用水にも含まれる物質で、日本水道協会では、当該物質は湖沼等で富栄養化現象に伴って発生するカビ臭の原因物質であり、その毒性はほとんど認められないと解説しております。

今後西網走漁協では、食味試験を行いカビ臭の低減を確認したうえで操業開始を検討することとしております。

またオホーツク総合振興局を窓口として、網走開発建設部や内水面水産試験場、東京農大などによる連絡会を開催し、情報の共有を図りながら今後の対応策を検討することとしております。

以上です。

○佐々木委員長

皆さんから何かございますか。

○山田委員

今、分析結果を含めて報告をいただいたわけですが、28日から自主休漁と。お聞きしますと一番大事な時期だという、収入の事も含めて大変残念に思うのですが、今説明あったように大空に二つにまたいでる状況もあるわけで、振興局も含めて関係機関との連絡もしっかり密にして対応しているようですから、ただ自然の問題だということになれば、これはもう雨がいっぱい降って水の循環がよくなることしか望みがないのかなというふうにちょっと思いますが、1日でも早く自主休漁が解除されるようお願いしたいわけですが、特に何かできる対策というのはあるのですか。

私、素人なので本当に自然に任せるしかないのかなと思うのですが。

○河野水産港湾部次長

今、山田委員からも御指摘のとおり自然のもの

でして、なかなかその原因が特定されていない状況でありますので、それに対する対応策というのは、今のところなかなか難しいというふうに考えております。

ジェオスミンと 2 - メチルイソボルネオールと、二つの物質がカビ臭の原因とされておりますけども、2 - メチルイソボルネオール、こちらの物質についてはなかなか研究が進んでいないといったこともありますので、そこら辺は非常に難しいのかなと考えております。

○山田委員

今、お聞きしましたが、やはり自然に頼るしかない状況のようですから、大変残念ですが、先ほど言ったように 1 日も早く自主休漁が解除されるようお願いながら、振興局、開発も含めて関係機関との連絡を密にして対応していただくことをお願いして終わります。

○佐々木委員長

そのほかよろしいでしょうか。ありませんか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

それでは、次にその他、理事者側から案件ございますか。

(「ありません」の声あり)

○佐々木委員長

委員のほうから何かございますか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

なければ、以上で経済建設委員会を終了いたします。

午後 1 時 17 分 閉会